

# ■平成29年度 大東中央幼稚園 学校評価

## 1. 本園の教育目標

—本園の教育理念—

・「知・情・体」三位一体の総合全人教育

—本園では目指す幼児像として次の6項目を掲げる—

- 1、丈夫な体をつくる
- 2、自分のことは自分でする
- 3、人に迷惑をかけない
- 4、よく見たり聞いたりする
- 5、きまりを守る
- 6、感謝の気持ちを持つ

## 2. 平成29年度、重点目標・計画

- 教職員の資質向上
- 「保育の質」の向上
- 安全管理体制の強化

## 3. 評価項目の達成及び取組み状況

評価項目	取組み状況
教職員の資質向上	保育の専門性もさることながら、教職員一人ひとりが子どもの育ちに対する重要な人的環境であるということを踏まえ、人間性の資質向上に取り組むべく、外部研修や園内研修を行った。特に子どもを見る視点の意識改革に取り組み、子ども一人ひとりの多様性とその背景にある家庭環境をも踏まえた上で、集団教育の重要性と共に、個の育ちを注視することを学んだ。もちろん、一朝一夕で変わるものではないが、根気よく継続し、教職員の幅広い視点の育成等、様々な観点から教職員の資質向上に取り組んでいきたい。
「保育の質」の向上	上記の取組みともつながるが、前年度に取り組んだ「言葉がけ」はもちろんのこと、待機児童解消のための様々な施策の中で改めて重要視されている「保育の質」の向上に取り組んだ。 そもそも「保育の質」の定義自体が難しいが、当園では、当園が取り組んでいる「知・情・体 三位一体のバランスのとれた教育」の充実に向けて、体育ローテーション・日課活動・

	<p>絵画表現活動・音楽活動等々、月に1回程度、各活動毎の園内研修を行い、他園の見学等も行った。</p> <p>ともすると、「井の中の蛙」になりがちな環境だけに、幅広い視点から研修を行い、バランスのとれた教育内容を展開すべく「質」の向上に取り組んでいる。</p>
安全管理体制の強化	<p>安全が第一ということはいわゆるすがすがすが、いかに怪我を減らすかを念頭に安全管理を行った。</p> <p>怪我をした場合の教職員間における共有はもちろんのこと、「ヒヤリ・ハット」があった場合の対策に取り組み、ハード面のみならず、子どもたちの生活習慣から考え、今、子どもたちにどのような力が足りていないのか、怪我を防ぐ為に必要な身体能力も考慮しつつ、日々の保育に取り組み、ソフト面からも「安全管理」について取り組んでいる。</p>

#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

<p>自己点検・自己評価による評価結果は、概ね満足のものであったが、あくまでも、自己点検・自己評価ではあるので、個々で再検証し、重点的に取り組んだ内容も踏まえ、より充実した教育活動を行っていきたい。</p> <p>園全体としてはやるべきことが山積している状態ではあるが、一つひとつ検証しつつ、今、自分たちに必要な取り組みを見極めつつ、「子どもを中心に」、謙虚に、より良い環境を目指していきたい。</p>
---

#### 5. 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
体育環境の再構成	<p>当園の教育活動の大きな柱として「体育ローテーション」があるが、三位一体教育の一端を担う重要な活動でもあることから、これまでの経験値を踏まえ、再度、「体育ローテーション」導入からの一連の流れを見直し、より子どもたちの「心」に語りかけ、響くようなものに再構成したいと考えている。</p> <p>体育により身体が鍛えられることはもちろんだが、運動を楽しみ、基本的な動きの中で、様々な動きを体験し、生活環境の中で欠如している動きを補いつつ子どもたちの発達に繋がればと考えている。</p> <p>もちろんその根底には、子どもたちが運動を楽しむということが重要でもあるので、より意欲的に積極的に取り組んでくれる環境構成を考えつ</p>

	<p>つ、発達段階に応じたより細かな種目の設定、年間カリキュラムの見直し等も踏まえ、再構成していきたい。</p> <p>幼児期に身体を動かすことはとても重要であり、心身の成長に及ぼす影響も非常に大きいことから、当園の教育活動の基盤として引き続き積極的に取り組んでいきたい。</p>
<p><b>保育環境の再構築</b></p>	<p>保育の内容もさることながら、各クラスの保育環境の見直しも進めていきたい。</p> <p>各保育室の絵本あるいは遊具等、室内における環境設定の再構築を行う必要性を感じている。絵本については地元図書館との連携により、定期的に絵本の入れ替えを行っているが、この取り組みをより有効活用すべく、絵本を含め、各保育室の「遊び」の環境を再構築できればと考えている。</p> <p>具体的には子どもの遊びの幅、あるいは選択肢を増やすこと。子どもたちが自主的に遊びを選び、取り組める更なる環境の幅を増やすことにより、保育のつながり、子どもたちの体験・経験による活動の連携ができ、より保育に深みが出てくるものと考えている。</p>
<p><b>防災への取り組み</b></p>	<p>近年、益々問題視されてきている「防災」について、いざという時の為に更なる取り組みを行いたいと考えている。</p> <p>基本的には「危機管理」に伴う取り組みとして、避難訓練は火災・地震等を想定し、当然定期的に行っているところではあるが、南海トラフ大地震等が起きた場合の降園困難時を想定し、災害備蓄品の全園児分確保。また、そういった場合の保護者による「全園児お迎え」も想定し、「お迎えカード」による管理及び「お迎え訓練」を行い、実際の災害時の検証を行うと共に今後の防災の取り組みに活かしていければと考えている。</p> <p>防災への取り組みは益々重要になってくるが、防災のみならず、【減災】への取り組みも積極的に行いたいと考えているところである。</p>

## 6. 学校関係者の評価

委員からは評価結果について、「概ね正しいと思われる」、「自分自身に厳しすぎる」、「もう少し良い評価ができる」等々の評価を頂いた。頂いた意見は真摯に受け止め、今後の園運営に活かしていきたい。

## 7. 財務状況

公認会計士監査により、適正に運営されていると認められている。